

第9回 第5次羽咋市総合計画 審議会 会議録

日時 平成22年10月20日(水) 19時～21時

場所 羽咋市役所 4階 401会議室

出席者 各審議会委員(欠席者 井村委員、大橋委員、坂室委員、田辺委員、福田委員)

アドバイザー 金沢大学 神谷教授

市側出席者

[事務局]

企画財政課長	岸 博一
企画財政課総括主幹	川口 哲治
企画財政課主幹	松田 秀治
企画財政課主任	中村 仁志

[審議事項関係課]

総務課長	今井 和秀
秘書室長	小原 慎哉
生涯学習課総括主幹	中谷 充久
総務課総括主幹	上井 忠彦
生涯学習課主幹	勝田 永彦
総務課係長	和田 美紀
総務課係長	山本 裕一

会議傍聴者 なし

1. 開会

2. 会長あいさつ

(略)

3. 第8回会議録の確認について

4. 会議傍聴者について

5. 審議事項

(1) 「地域教育」「コミュニティ施設」「生涯学習」「スポーツ・レクリエーション」について

生涯学習課総括主幹より説明の後、審議

【アドバイザー】

・これから高齢化が進んできて、元気な団塊の世代が増えていく。地域の福祉の中で余暇活動や学習活動を支援していくことは、地域活性化の観点から重要だと思われる。ハードは整備されているので、これからソフト面でどういう活動を支援するのが重要になってくるのではないかと。そのような視点から提言いただければと思う。

【委員】

・生涯学習の指標の公民館利用者数は減少している。三世代交流の場として休日利用したいとの声が多いが、申込があれば開けているが、それ以外は閉じていると聞いている。コミュニティの場としての公民館のあり方について聞きたい。

【生涯学習課総括主幹】

・公民館の職員体制の問題もあり、日曜日、月曜日に閉館している。事前に申し込み、協議があったものについては、開館している。地域密着ということで要望に応じて自主的に日曜日にも開館しているところもあると聞いている。それぞれの館長の考え方にもよるところも大きい。地域の良さで、気軽に今日これから開けてほしいといったような急な要望は対応に苦慮するので、今後も事前の申し込み、協議で対応していければと考えている。

【委員】

・公民館と町会会館の分布を知りたい。
・町会の育成が所管業務となっているが、町会の役割と機能について教えてほしい。どういう形で育成するのか、その基本姿勢について教えてほしい。

【生涯学習課総括主幹】

・町会会館は町が主体となって市の補助で建てられている。
・公民館は小学校区の単位で11館あるが、うち1館は邑知公民館の分館で神子原公民館。
・66町会に59の町会会館がある。
・羽咋公民館のある中央町や南中央町には町会会館がない。
・神子原地区は神子原町、菅池町、千石町だが、神子原分館があるのは神子原町。

【総務課長】

・町会は最小の自治組織であり、最も身近な地域団体。地縁でつながっており、身近な環境を守る、安全・安心を地域共同体として守る一番重要な組織であると思っている。

【委員】

・地域教育の今後の方向性について提言する。近年、親のモラルの低下、教師の不祥事など学校教育への信頼が低下している。家庭教育、学校教育が基本だが、今後重要になるのは社会教育すなわち地域教育の充実だと思われる。

・世代間交流を主として、保護者と地域の人たちが児童生徒に対する学習や生活面を支援すべくサポート隊などの組織化をしてはどうか。野菜づくり、花づくり、クラブ活動の指導、グッドマナーキャンペーンに基づいた挨拶運動、登下校の安全指導など多岐に亘る。それをフォローすることで家庭と地域と教育が一体となって調和した児童の育成に努める。

・切磋琢磨する子どもたちのために、地域の教育の柱である健全な子ども条例などの整備を進めることが大切。

【委員】

・公民館についてだが、同じこともあるが違いもある。越路野公民館で館長をしているが、越路野では、4年前に小学校が廃校になり、瑞穂小学校に統合された。現状として公民館はあまり利用されていない。子どもがいないからかもしれない。

・公民館の位置関係は、千路町、柳田町の境にある。北に小学校があったが廃校になり、公民館だけが寂しくある状況。羽咋や千里浜など他の地区の公民館は行事予定がびっしり入っているが、越路野公民館は閑散としている。

・核になる行事があればいいなと思うが、今のところ社会体育大会があるので、主に三世代交流の場として残していこうと努力している。その地区ごとの事情に応じて運営していかなければいけないと思っている。

・公民館に来てはじめて取りかかったことだが、廃校になった小学校にあった大切な思い出の品々が数年前から埃を被っていたが、校歌や絵画などを保存することにした。いいことだと見に来て下さる方もいる。

・小学校がないのは寂しいことだが、できるだけ活性化するよう努力している。

【委員】

・以前の審議会で福祉関連の施策について審議した際に、保健福祉センターを整備するために、公民館を活用したらどうかという提言が委員より出されたと

思うが、同様のことを考えている。

- ・地域に町会会館と公民館の二つがあったら、スケジュールを譲り合えば一館で事足りるのではないかと思う。どちらも利用状況が6、7割にも及ぶということがないのではないか。
- ・公民館で行っている行事を町会会館に譲れば、公民館が空くことになるのではないか。そのような施設を保健福祉センターなど別の用途に利用するといった活用方法が考えられる。
- ・今までのやり方でやっていったら羽咋は潰れる。ゼロベースで考えることが大事ではないか。

【委員】

- ・ユーフォリア千里浜についてだが、水泳を10年近くやっていて、当初の3、4年は通っていた。近年は志賀町のシオンに行っている。ハードの面でそれほど差があるとは思っていない。では、なぜか。単純に職員の差だ。職員教育の問題だと思っている。
- ・ユーフォリア千里浜に行かずにシオンに行っているのは自分だけではない。
- ・シオンは、たまに行くとき「ひさしぶりですね」と声をかけてくれる。他のお年寄りに対しても同じく、当たり前のように挨拶してくれる。
- ・ユーフォリア千里浜では、挨拶もない。下駄箱の鍵を渡されるときも、業務的でコミュニケーションがない。志賀町のシオンと比較するとその差は歴然としている。
- ・これらは教育すれば単純に解決する問題だと思っている。年に1、2回はユーフォリア千里浜に行き、改善されたかなと期待するが、変わってないという印象を受ける。
- ・シオンでは泳いでいる間に、職員が掃除をして綺麗にしようとしている。ユーフォリア千里浜では見かけたことがない。
- ・志賀町のシオンを見習って、改善していただきたい。

【委員】

- ・スポーツを通じて地域振興を図るというのも効果的だと思っている。総花的でなく、地域に特徴的なスポーツを戦略的に伸ばしていくとよいのではないか。サッカーが強いということで地域振興を図っている例もある。

【委員】

- ・指標である「スポーツ・レクリエーション指導員資格者数」の増加が遅滞しているということだが、年間通して研修会をしてPRとかしているのか。している

のであれば、各地区ごとに盛んなスポーツがあるので、指導員が増えれば特色ある地区になっていくのではないかと思う。

【生涯学習課総括主幹】

・少子高齢化ということもあり、スポーツ・レクリエーション指導員については、市独自では特に育成などの施策はしていない。県の「いしかわ総合スポーツセンター」で行ったりしている。市内の関係団体に資格取得を勧め、情報提供している。

【委員】

・「スポーツ・レクリエーション指導員資格者数」を指標に挙げているのはなぜか。

【生涯学習課総括主幹】

・競技によっては審判をするのに資格が必要ということがあり、取得者が増えていけばスポーツ振興が図れるものと考えている。

【委員】

・スポーツ指導者の資格取得について市が何かをしているわけではないのか。

【生涯学習課総括主幹】

・その通り。

【委員】

・それは指標としてふさわしくないのではないか。

【生涯学習課主幹】

・日本体育協会と文部科学省によるスポーツ指導者の制度がある。資質の向上のための資格になっている。

・日本体育協会の中には、スポーツ少年団も含まれる。スポーツ少年団は市内23団体あり、約400名の団員がいる。

・高齢化により指導者を辞めていく人もいれば、新規に指導者になる人もいる。常に指導者の資質向上を図る意味でこういった指標を挙げている。

・市独自で行っていることとしては、資格者の資質向上を目的とした研修などを年数回実施している（今年はないが）。内容は、熱中症予防、トレーニング論、スポーツマッサージ、スポーツ心理学など。

【委員】

・市が具体的に何をしているのかよくわからない。近年施設もさることながらスポーツが廃れてきているような印象を受ける。もっと積極的に振興を図ってほしい。

【企画財政課長】

・第4次総合計画は漠然とした計画だった。デジタル化するために指標を探していたがこの項目になったが、あまり精査されていなかったもので、これが適切だったかどうかという課題がある。

・第5次総合計画での指標は、例えばスポーツ人口、バモスの参加者などの推移など、ふさわしい項目があれば設定を見直そうという方向で検討しているところ。

【委員】

・市からの説明を聞いていて、単純に数字を追いかけているという印象。いろんな事業をしているということも知っているが、こういった進行管理書や指標などに表れてきていない。成果が上がっているのかどうかということがこれらの資料ではわからない。

・取り組んだ事業を具体的に列挙して、それらの成果を測り、その結果やめるか、継続するか決めたといった表現にならないか。

・以前述べたが、目標値を上回る実績値があるにも関わらず、数年前に設定したからといってそれを用いることは、解せない。

【企画財政課長】

・第4次総合計画の指標は、5年ごとに見直しているが、毎年や2年おきに見直しをしたりするというような方法を第5次総合計画で検討したいと考えている。

・これまでの行政は実施したらそのままになっていて検証することがなかった。事業の効果を指標という形で数値化する必要性がある。それによって、事業を見直していいかどうかの参考になる。

【委員】

・体育協会に携わってきた経験上、確かにスポーツが廃れてきているという印象を受ける。行政組織でいうと、以前体育課があった。そこに7、8名職員がいた。現在は、課がなくなって生涯学習課の中に属し、2名程度となっている。その人数でスポーツ関連の事業をしている。

・体育協会の競技団体も高齢化で指導者が徐々にいなくなっている。さらに少

子化でスポーツ人口が減少している。

- ・スポーツの種目は多様化している。羽咋は柔道、剣道、弓道、相撲などが昔から強かった。剣道は各公民館単位で教室がある。小学校、中学校と系統だつて練習する場がある。それも相まって強いのだと思う。

- ・サッカーの人気が出てきていて、学校でサッカー部を作ってほしいといった声があったが、現状では難しいということがあった。数年前は陸上部がサッカー希望の生徒を引き受けたという経緯がある。生徒の人数が少なくて部が作れないという現状がある。

- ・提言というが、正直どうしていったらよいのか簡単にはわからない。

- ・本日老人会の運動会があったが、盛大だった。老人パワーがみなぎっていて感心した。

- ・子どもが少なくて、各スポーツに散らばり、指導者が少ない。ジレンマを感じる。問題は人も、お金もあるかなと思う。

- ・陸上競技に限っていうと、公認の陸上競技場がないのは羽咋くらいかなと思う。5年前までは羽咋中学校で実施していた。それが県の大会、全国大会につながったりした。力を入れたおかげで陸上の熱が盛んになった。3年ほど前には市の大会を志賀町で開催した。こうした取り組みで全国に行っても上位に入ったりしている。

- ・ユーフォリア千里浜だが、プールに潜ったときに透明度が低い。他の町の透明度が高いプールに行ってしまう。

- ・体育振興事業団の理事としてユーフォリア千里浜の運営の議論をするが、ほとんどが修繕、修理とか、どうしたら利用者が増えるかとか、そのような類の話につきる。お金かなということも思っている。

【副会長】

- ・これからの10年を考えたときに、生涯学習課の所管する事業が多い。指定管理者制度を活用し、体育振興事業団を所管している。縦でなく横のつながり、連携の必要性を感じる。

- ・生涯学習課をとりまく、教育・文化・スポーツなどの組織の見直し、体制づくりが重要ではないか。

- ・生涯学習課の担っている役割の重さに対して、現状には多くの問題を抱えている。

【会長】

- ・地域教育、生涯学習にしても、哲学が必要だと思う。小学校2年生に“三つの目玉”がある。まず朝起きたら両親に明るいう挨拶。自分の名前を呼ばれたら

元気な返事。もう一つは履き物を揃えること。3、4年生になると目玉が別にある。学校教育との連携の中で地域教育をやっていく上で、子供に年代に応じた接し方が必要かと思う。

・生涯学習でもスポーツ関係でも同様なことが言える。ねんりんピックで羽咋は剣道競技が実施された。礼に始まり、礼に終る。その姿勢は素晴らしいものだった。スポーツ・レクレーションも同様の観点から考える必要があると思う。

(2) 「人権」「男女共同参画」「交流」「情報化」について

企画財政課長、総務課長、秘書室長より説明の後、審議

【会長】

・ホームステイを受け入れているということだが、その後の行政としてなんらかのフォローアップなり、交流があるのか。その機会をどのように活かしているのか。

【生涯学習課総括主幹】

・このホームステイ受け入れは、北国新聞社や石川県が中心になって開催している JAPANTENT の事業の一環として行っているもの。受け入れ家庭も少なくなってきたいて、職員で対応していたりする。留学生が対象になっている。引き続き市として特に交流はない。他市町で互いに行き来するなど交流があるところもあると聞いている。

【会長】

・藤岡市との姉妹都市交流の中で、具体的に良い点があり取り入れたものがあるか。

【秘書室長】

・伝統文化の継承という点で感動を覚えた。特に藤岡まつりでのまちの賑わい。規模の大きさ。学ぶ点は数多くあった。
・逆に羽咋市では唐戸山神事相撲は、伝統ある行事でもあり熱心に見ていただいた。

【アドバイザー】

・4つの項目で幅広い内容になっていると思う。それぞれすぐに成果がでるようなものでないと思う
・男女共同参画は長期の視野で見なければいけない施策。都市交流などもすぐ

に成果の現れるものでもない。情報化に関しても主にハードの整備になると思われるが、成果は本当に目に見えにくいもの。

- ・指標を見てそのまま成果と判断することも難しいところもある。
- ・将来の方向性を見据えた上での議論が必要。

【委員】

・藤岡市との姉妹都市交流だが、商工会レベルで毎年、市商工観光課の協力のもと、行き来している。海産物など特産品を藤岡市に持って行って、藤岡市の商工会で場所を設けてもらい紹介している。反対に藤岡市の商工会から羽咋に物産を持って来てということはいままでのところなかったと記憶しているが。このように商工会レベルではかなり交流を図っている。

・ちびっこ駅伝に藤岡市の子どもたちをバスで招いたことがある。非常に評判がよくて礼状がきた。成果はどうかはわからないが、こうした交流を続けていくことが大事なのではないかなと思う。

【委員】

・男女共同参画についてだが、女性が抱える相談窓口は設けられているとのことだが、相談件数は毎年かなりあるものか。DV やセクハラなど社会で問題になっているが、これらに対処して取り組んでいただければと思う。

【委員】

・民生委員として、年1回、施設研修を行っている。2日間、会津若松に行ってきた。一日目の障害者サービス事業所に2班に分かれて2時間ほどの研修だった。施設ができたのは3年前だとのこと。職員は女性で物腰が柔らかい方だった。利用者の年代は小学生から高校生まで。

・まず入ったら「こんにちは。いらっしやいませ。」との歓待を受けた。障害者支援は多様化するニーズの中でも難しい部類。

・30分程度、施設長からパワーポイントで説明を受けた。開所当時は、子どもらが食事の際に「いただきます。」「ごちそうさまでした。」が言えなかった。社会へ出ていくための支援なので、根気強く指導したとのこと。言えるようになるまで一年くらいかかったようだ。「植物や動物の命を頂くので、“いただきます”というのですよ。」と説明して諭したそうだ。「“ごちそうさま”は作って頂いたお父様、お母様に対して、運んでくださった方に感謝して、言うのですよ。」と。

・今では理解できるようになり、来所した人には挨拶ができるようになった。いい勉強してきたなと喜んで帰ってきた。

・軽度の方は、パン工房、豆腐工房に従事している。実習を受けながら、社会復帰を目指している。都合の悪い方にはデイサービスを行っている。保護者にとっては当初障害者ということで引け目を感じていたとのことだが、今では入所待ちになっているという。

・羽咋でいえば「あおぞら」の大型化したような施設。

・人権の中には小中学生の道徳について触れている。道徳というのは、挨拶運動から始まるのが基本だろう。

【委員】

・図書館にあるパソコンの使用時間がこの前まで15分と決められていた。最近30分になった。検索しているだけで15分くらい経つ。印刷ができないとなっている。

・中央公民館にパソコンを使い冬に行ったが、寒いところにあり、15分も座っていられなかった。

・ホームステイとか大きな事業は、夢のあるような印象を受けるが、自慢のためにやっているような事業に思えて、どんな効果があるのかわからない。

・公民館の15分、30分程度しかパソコンが使えないのはどういう理由でそうなっているのか。

【委員】

・姉妹都市である藤岡市で開催される藤岡ウォークに参加した。とても綺麗な中央公園とかがある。自分の体力に合わせてコースが選べる。一年目は体力に見合わないくらい歩いた。羽咋より大きなまちだが、人口規模にしては宿泊施設がどうかと思った。

・相撲という伝統文化の接点で姉妹都市になったと聞いている。羽咋の方が、観光、文化、歴史についていいまちだと自負している。

・藤岡市のいいところも含めてもっと交流していけばいいと思う。藤岡からもっと羽咋に来てもらって、北陸の日本海の素晴らしさなど羽咋のよさを体験してもらいたい。そうすれば、羽咋はいいところだと藤岡の人達にも浸透していくのではないかなと思っている。旅館にしても食べ物にしてもいい施設もあるので。

【委員】

・秘書室長の話で、藤岡市との姉妹都市交流の中で、大変学ぶべきところが大きかったという話だったが、羽咋市の行政の中で活かしている点はどのようなところか。

【秘書室長】

・藤岡まつりは山車が出たり、古くからの踊りがあったりと伝統文化の香りがする。羽咋まつりの場合、はまぐり音頭など新しいまつり。藤岡をただ真似るのではなく、羽咋らしさを大事にしつつ、どう活かしていくかというご指摘だと思うが、商工観光課にも伝え今後の課題とさせていただきたいと思っている。

【委員】

・男女共同参画だが今年度から男性も育児休暇を取れるようになったと聞いたが、羽咋市で取得した人はいるのか。

【総務課長】

・育児休暇と育児休業とがある。育児休業は1年とか半年とかといったもの。男性では取得者はいない。育児休暇は妻の出産の前後に五日間とか休むもので、これは男性にいます。トータル5日間の短い期間だが。

【委員】

・取得するように促すといったことはあるのか。
・男性が育児休暇を取るということを敢えて質問しているのは、それが普通にならないとそれを意識すること自体が男女差別だと考えるからだ。

【総務課長】

・育児休暇については男性も積極的に取得している。全て取っても5日間なので、業務に支障はきたさない。育児休業は残念ながら男性にはいない。

(3) 「市民参加」「広域行政」「地域間の連携・協力」「効率的な行財政運営」「職員の人材育成」について

総務課長、企画財政課長より説明

【会長】

・提言は時間の都合上、次回にする。

【委員】

・一分で事務局の資料の説明が終わりというようにならないか。

【企画財政課長】

・今回で事務局からの説明がほとんど終わりになり、次回は今回の提言と4回

目以降の振り返りになる予定。

【アドバイザー】

- ・今回の審議事項は行政の部分だった。土地開発公社など課題もあるが、市民の財産でもあるし、簡単に売るといった話にもならないので難しい問題もある。
- ・職員の研修の話もあったが、財政も厳しい折、これから職員は減らさざるをえないだろう。少人数精鋭でするしかない。長期的に見たときに今いる職員の質を高める必要があるので、そういった観点で研修など人材育成を考えてもらえればと思う。

6. 次回会議について

【事務局】

- ・第10回 11月1日（月） 19時から

7. その他

【事務局】

- ・振り返りシートを送付するので、提出をお願いしたい。

8. 閉会